

細川氏

清和源氏、足利氏の支族。嫡家は室町幕府管領家の一つ。遠祖は、足利義康の子、義清で、その孫義季が三河国の額田郡細川郷(愛知県岡崎市)に移って、細川を名字とした。

◆義清-義実-義季-俊氏

出典: 國史大辞典

細川俊氏	細川公頼	細川和氏	細川清氏			
			細川業氏			
		細川頼春	細川頼之	細川頼元	京兆家	細川氏の嫡家。右京大夫を官途とし、摂津・丹波・讃岐・土佐4か国の守護を世襲し、管領に任じられる家格であった。7代目、昭元(のち信良)は信長の妹を娶ったが、秀吉から勘当され、京兆家の歴史的生命を断つ。
				細川頼有	細川頼長	和泉半国守護家(上守護家)
			細川頼元			
			細川詮春	細川義之	阿波守護家	6代目、持隆は、天文22年1553三好長慶の弟之康に拭殺され、その後事実上滅亡。
			細川満之		備中守護家	代々備中守護を務め、足利義満の代には、讃岐、伊予も所領となった。6代目、晴国が天文5年1536に討たれ、断絶する。
	細川基之	和泉半国守護家(下守護家)		備後半国守護、その後和泉半国守護となる。5代目、九郎は摂津で敗死し、断絶する。		
	細川師氏		淡路守護家	代々淡路守護を務めるが、6代目、尚春は永正16年1519三好之長に滅ぼされ、断絶。		
	細川頼貞	細川頼貞	細川繁氏			
			細川業氏	奥州家	顕氏の養子業氏を初代とする。顕氏以来、代々の当主は陸奥の守に任じられたので奥州家と呼ぶ。奥州家は永禄年間1558-1570まで続くが、7代目、輝経が細川藤孝の嫡子忠興を養子としたことで、事実上、藤孝・忠興父子の家に接收された。	
		…細川藤孝	肥後国熊本藩主	細川家中興の祖藤孝の嫡孫で、忠興の嫡子忠利が初代。藤孝は秀吉・家康に仕え、忠興は信長・秀吉・家康に仕え、本能寺の変では明智と関係を断ち所領を安堵され、関が原では東軍の有力武将として活躍する。寛永9年1632加藤清正の嫡子忠広改易に伴い、肥後国熊本54万石に就封、以来、外様雄藩の藩主として明治維新にいたる。		
		細川政氏				
		細川定禅				
	細川皇海					